

優秀賞 辻本靖詞「水にまつわるエピソード」

我が家は、佐用町三日月の旧因幡街道沿いにあります。家の前、玄関を出てすぐのところに昔ながらの小さな水路があり、山から来たきれいな水が流れています。大小の石を組んでできた水路は人の肩幅ほどで、流れる水は10センチにも満たない小さな流れですが、我が家の二人の子供たちが小学校に入る頃までは、そこが格好の遊び場になっていました。

運動靴を履いたままジャブジャブと豪快に歩いたり、バケツで水をすくってはクルクル泳ぎ回る魚の赤ちゃんに目を細めたり、石垣の隙間から見えている沢ガニを猫じゃらしの穂先で釣り上げたり、上流に向かってのそのそ歩くカメを見つけて尾行したり等々、子どもたちはもちろん、親も一緒になって楽しんでいました。

家の前で水浸しになって、大はしゃぎしていた子どもたちもすっかり大人になりましたが、石積みの間をキラキラ流れる水面は今も変わらず、ときおり記憶の1ページを呼び覚ましてくれます。